

「少年の記憶」太平洋戦争と水島の戦場

三宅啓介さん

私は昭和9年2月生まれ、81歳になる。昭和15年連島西浦尋常小学校へ入学した。時に⁽¹⁾紀元二千六百年、国の一大行事として各地日の丸を掲げ⁽²⁾提灯行列で盛り上がっていた。

翌16年、2年生に進級。小学校は国民学校へ改名。日中戦争（当時は支那事変）中とはいえ、対米英戦争への足音は子ども心に感ずるものはあった。二学期の終わりに近く、12月8日を迎える。朝近所の人々が集まり「万歳」「万歳」と大歓声を上げ、ラジオは「⁽³⁾軍艦マーチ」と共に⁽⁴⁾大本営発表が鳴り響いていた。帝国海軍⁽⁵⁾真珠湾攻撃の報である。

年は変り翌17年、シンガポール陥落など日本軍の連勝連勝の報に一億国民老若男女胸を躍らせてラジオのニュースに聞き入った。戦後知ったものの、同年ミッドウェー海戦においては日本は大敗北を喫したにもかかわらず、大本営は勝利のみを報道し国民を鼓舞させていたのである。

国民学校においては毎月8日を⁽⁶⁾大詔奉戴日とし、全生徒は主神様に参拝、校長は開戦の⁽⁷⁾勅語を朗読、全員戦勝を祈願した。

時は少し前に戻り、亀島山の南の海を埋め立て三菱重工業が飛行機工場の建設を始めた。また、北側の田畑では工場で働く社員住宅の整地も始まり、住宅、商店と続々と出来上がっていった。

水島という地名は約4キロ先に浮かぶ小島、上水島と下水島の名前から命名されたものである。工場も完成し19年2月11日の紀元節（建国記念日）、海軍一式陸上攻撃機が完成。その初飛行の式典に小学生は全員日の丸の小旗を持って参加した。初めて見る⁽⁸⁾双発の4枚プロペラ、濃い緑色に塗装された機体、その勇姿を見て⁽⁹⁾血湧き肉躍った思いを覚えている。長い式典が終り初飛行は成功。上空を旋回後、東の空へ翼を左右に振

って消えて行った。名古屋で武装し戦地へ行くとの説明に目を輝かせて聞いたものである。三菱の飛行機工場完成間近、連島の籠取山に海軍一個中隊が赴任。兵舎を建て高射砲陣地を築き5門の高射砲が南の空を向き水島の防衛にあたった。前に述べたラジオの



【第1号機の進空式】

「軍艦マーチ」はほとんど聞かれなくなり、19年秋には神風特別攻撃隊、20年にかけてはサイパン等の玉砕で、それは「海ゆかば」に変わっていった。それまでB29の空襲は成都(中国)より飛来し、主に北九州工業地帯を目標にしていたが、サイパン、テニアン島を基地としてB29の日本本土爆撃が始まる。3月の東京大空襲、そして大阪、神戸と主要都市は次々と焼夷弾の雨にさらされていった。ある晴れた日、1機のB29が超高空より銀色に輝きながら飛行機雲を引き、ゆっくりと水島上空を1周した。それに前後して、3月に何の警報も無く高空よりB29が数発の爆弾を三菱の工場に投下した。5年生末期の授業中でもあり、窓から見た爆発音と噴煙は物凄く、これが水島が戦場になる前触れでもあった。6月22日は朝8時過ぎ突然の空襲警報。空を見上げれば空一面と言っても過言ではないB29の編隊。今まで見たことも無い低空、銀色に見えた機体も黒く見え、それは数えきれない大編隊であった。同時に籠取山の高射砲も火をふいた。上空での砲弾の炸裂音、破片が屋根の上に落ちてくる。同時に夕立にも似た爆弾の落下音、続いての爆発音、地震の様な振動と爆風、防空壕に入っているものの初めて知る恐怖、時間で言えば1時間足らずで静寂が訪れる。家族の制止を振り切り裏山へ駆け上がる。籠取山全体が黒煙に包まれ、後ろの三菱の工場は火の海、立ち昇る黒煙は何千mも高く、空一面を覆っていた。

しばらくして雨が降ってきた。あの黒煙が雨を招いたものと思う。後日、岡山市への空襲。夜間のため焼夷弾が空中で炸裂、小さな火の玉の落下して行く様子は連島でも見

ることができた。次にやってきたのは、グラマンの来襲である。地上で動く物に狙いを定め機銃を打ちまくる様子は、正に地獄であった。1機のグラマンに⁽¹⁵⁾対空砲火が命中。白い煙を引いて南の空に消えて行った時の喜びは大変なものであった。日々グラマンの来襲に怯えながら8月6日には広島が1発の爆弾で消滅したとの報は特殊爆弾と報じられ、強い光線を出すため白い衣服をとの指示があり、9日には長崎と続き、8月15日を迎える。「本日正午、天皇陛下が重大な放送をされる。」との報があり、正午ラジオの前に立ったものの、雑音が激しく聞き取る事はできず、その日の夕刻になり日本の敗戦を知った。日本が敗けた悔しさは不思議と無く、一番に心の中を走ったことは「これで空襲が無くなる」そのことのみであった。水島の戦場はここで終わりを告げる。

6年生も2学期が始まる。あの⁽¹⁶⁾軍国主義教育はかけらも無く、教科書のページは次々と黒く塗り潰し、その作業のみに追われていった。あの軍国主義から民主主義への変わり身の早さは正に驚きで、日本人の体質か今もって不思議な思いがするのは、私だけだろうか。

最後に、水島の戦場も含め、あの⁽¹⁷⁾戦禍に倒れた三百余万の⁽¹⁸⁾御霊に心から哀悼の意を表します。

-
- 1 紀元二千六百年...1940年が神武天皇の即位から2600年目に当たるとされたことから、式典などの記念行事が行われた。
 - 2 提灯行列...祝意を表すため、夜間、大勢の人が提灯をもち列を組んでねり歩くこと。
 - 3 軍艦マーチ...鳥山啓作詞、瀬戸口藤吉作曲の軍歌。
 - 4 大本営発表...太平洋戦争(大東亜戦争)において、日本軍の最高統帥機関であった大本営が行った、戦況などに関する公式発表のこと。
 - 5 真珠湾攻撃...ハワイ・オアフ島の真珠湾(パール・ハーバー)にあったアメリカ海軍の太平洋艦隊と基地に対して日本海軍が行った攻撃。
 - 6 大詔奉戴日...太平洋戦争完遂のための大政翼賛の一環として、昭和17年から終戦まで実施された国民運動。太平洋戦争開戦の日になんで、毎月8日に設定された。
 - 7 勅語...天皇のことば。
 - 8 双発...エンジンが2個あること。
 - 9 血湧き肉躍る...勇ましくて興奮させられる。
 - 10 神風特別攻撃隊...太平洋戦争末期、追いつめられた大日本帝国海軍が編成した特別攻撃隊。
機体に爆弾を固定した航空機による敵艦船への体当たり攻撃を行った。

- 11 玉碎...玉のように砕けること。太平洋戦争における日本軍部隊の全滅を表現する言葉として大本営発表などで用いられた。
- 12 海ゆかば...万葉の歌人，大伴家持の長歌の一節に信時潔が曲を付けた軍歌。
- 13 成都...中国四川省の省都。戦時中は B29 による日本本土空襲の基地となった。
- 14 焼夷弾...火災を引き起こすために作られた爆弾。
- 15 対空砲火...航空機に対して行われる，火砲による攻撃。
- 16 軍国主義...戦争を外交の主たる手段と考え，軍事力を最優先する考え方ないしイデオロギー。
- 17 戦禍...戦争による被害・災難。
- 18 御霊...魂（たましい）の尊敬語。